

2025年 図書館総合展ウェビナー (オンライン開催)

『ジャパンナレッジ版 史料纂集・群書類従』が拓く史料学 －紙とデジタルの交差点－

11月 11日(火) 15:00~16:00

主催：紀伊國屋書店、協力：ネットアドバンス、八木書店

『史料纂集』校訂者が語る『ジャパンナレッジ版』の現在と未来

井上 聰 氏 (東京大学史料編纂所附属史料学協創センター 准教授)

これまで東京大学史料編纂所にて、史料集編纂を本務として進めるかたわら、そのデジタルデータ化やデータベース化の作業に携わってきました。紙の書籍としての有用性とデジタルデータならではの機能性は、両者があいまってこそ、歴史研究のインフラになると感じています。編纂所における経験をふまえて、『史料纂集』『群書類従』を対象とした新たな動きを見つめたいと思います。

東京大学文学部国史学科卒。東京大学大学院人文社会系研究科修士課程卒。同博士課程単位取得退学。専門は日本中世史。1998年東京大学史料編纂所に助手として入職。『日本荘園絵図聚影』『大日本古記録』の編纂に従事するほか、「電子くずし字字典データベース」「花押データベース」などの開発・運営に参加。現在、同所附属史料学協創センター・准教授。2025年度新設の同センターにて、史料原本の修理・調査を通じて蓄積された知見・経験値を、デジタル情報技術と融合させることで可視化・共有化してゆく事業を進めている。そのほか「行橋市史」「福岡市史」「高知県史」などの地方自治体史編纂、『安保文書』(史料纂集・古文書編)の編纂に携わった。



『ジャパンナレッジ版』で意外な発見！大学院生によるHow to 文献調査

室伏 奏楽 氏 (東京大学大学院博士課程)

ときに、さらなる研究のために、分野を超えたより広い視野での文献調査が必要とされます。そのような場合に『ジャパンナレッジ版 史料纂集』がどのように役立つか、利用者の具体的な経験をもとに紹介します。

イベント開催にあたって

『史料纂集』は、日本の歴史・文化研究に欠かせない史料を翻刻・集成した一大叢書で、『大日本古記録』『大日本古文書』と並び、学界で最も信頼されるテキストとして270冊以上を刊行しています。このたび、2026年1月の『ジャパンナレッジ版 史料纂集』第4期リリースを記念し、フォーラムを開催いたします。本フォーラムでは『ジャパンナレッジ版 史料纂集・群書類従』の図書館レファレンスや研究・教育現場での活用を視野に、史料編纂とデータベース構築の両方に携わる研究者の実践報告と、若手研究者の日常的な利用事例をご紹介いただきます。図書館ご担当者様はもちろん、学生・研究者の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

以下のURLもしくはQRコードからお申込みいただけます（参加無料）

<https://forms.office.com/r/MmnjnkSst7>



イベントに参加・アンケートに回答いただいた方に、【特製カレンダー2026「平安文学の至宝」】と【オリジナルA4トートバッグ】をプレゼント！

過去に開催したウェビナーの録画も公開中！



- 現役図書館員がズバリ聞く『ジャパンナレッジ版 史料纂集』
『史料纂集』とは何かという入門的な話題から、全文検索を実装したジャパンナレッジ版の使い方、紙書籍版との違い、図書館におけるレファレンス対応の具体例までを幅広く解説。
- デジタル時代の古典文学研究のヒント集
古典文学研究に挑戦する学生にとってデータベースはどのように力を貸してくれるのか、データベースを実際に操作しながらジャパンナレッジ版を利用するためのコツをわかりやすく紹介。
- 辞書がない言葉をどう調べるか?
文献調査で辞書に載っていない言葉と出会ったらどうするか？様々な分野の研究で有効な、用例の収集におけるリサーチツールとしての『ジャパンナレッジ版 史料纂集』活用法を具体的に紹介。
- 『ジャパンナレッジ版 史料纂集・群書類従』を使った時代考証のススメ
ジャパンナレッジ版史料纂集・群書類従を使ってどのような時代考証・古文書考証が可能になるのか、歴史ドラマの古文書考証担当者が史料データベースのエンターテインメントへの活用術を紹介。